

歯科医院だからこそできる！ 糖尿病の予防をやさしく解説



内科医から伝えたい 歯科医院に知ってほしい糖尿病のこと 西田 互 著

B5判/90頁 定価：本体3,200円＋税
医歯薬出版（2017年7月）

大阪大学大学院歯学研究科 口腔分子
免疫制御学講座 予防歯科学分野 教授
評・天野敦雄（歯科医師）



ぬわぁんと！ 古今東西、これほど歯科に精通した内科医が存在したであろうか。本書の筆者は糖尿病専門医である。察するところ、かなりの名医（たぶん愛媛のブラックジャック）。その筆者がそれまで門外漢であった歯科に精通するに至ったきっかけは、ご自身が受けた歯科治療というから驚き。

筆者は、身体のおちこちに病魔が巣くう“メタボ中年”だった（口も臭かったに違いない）。ある日、一大決心をして歯周治療を受けたところ、驚くなかれ、リンゴをかじると血が出ていた歯肉がピンク色を取り戻し、全身からは靈妙たちどころに病魔退散。またたく間に身体堅固な“スマートモデル”へと変身を遂げたのである。ぬわぁんと！ 歯科治療はこれほどの妙薬であったかと、腰を抜かささんばかりの悟りを得た筆者、これより「生まれ変わったら歯科衛生

士になりたい」と公言するに至る。

「口は健康の入り口、魂の出口」。この格言の深奥を体験から悟った筆者が、再びぬわぁんと！と驚いた。歯科医療人の糖尿病に対する誤解、無関心、そして無知にである。「ここ……これではいけない」、筆者は動いた。医科歯科連携のジャンヌダルクとして、全国津々浦々への講演活動に加え、ついに著書発刊にも乗り出した。そうして生まれたのがこの名著である。

糖尿病をはじめ、多数の全身疾患と口は深くつながっている。糖尿病を知らないあなた、知ったかぶりのあなた、知っているはずのあなた、目からうろこを保証します。なぜなら、論点は簡潔明瞭で、伝えるではなく伝わる言葉で綴られているからです。糖尿病は血管病であること、歯周病と糖尿病をつなぐメカニズム、そして歯周治療が糖尿病を改善するなど、濃い内容に心はわしづかみされっぱなし。さらに行間からほとぼしる筆者の燃える血潮にあおられ、一気に通読できるでしょう。そして学生時代から勉強好きだった君、授業が始まるやいなや寝ていた君も、迷わずこの本を手にとってみよう。智への誘いが心地よく身体を包むこと間違いなし。

発刊以来、歯科領域の売れ筋ランキングにおいては連続でトップをキープ。さらには歯科のみならず“内分泌・代謝”分野でもトップに躍り出るなど、レコード大賞、歌謡大賞、M-1グランプリ総ナメに匹敵する快挙であります。

現代の歯科は「削る・詰める」の欠損主体医療から「口腔を生涯守る」医療へと変貌しています。われわれは口腔疾患の“後始末”に終始するのではなく、科学を武器として上流にある病因と対峙しなければなりません。学ぶことなくして、みずから志ある歯科衛生士とよぶことなかれ。まだこの本を手にしていないあなた、老婆心ながら、人生の好機を逃しては後悔されるかと。

注)「ぬわぁんと！」は、西田語録からの無断借用